

オシロスコープ測定法実験

○須恵耕二，小嶋一生，谷口勝紀，青木敏裕，山口倫

電気情報技術系

1 はじめに

電気を扱う実験で、見えない電気の特性を可視化する最も基本的な測定器具がオシロスコープであり、その使用方法の習熟は不可欠である。本実験では、交流電圧・電流の時間波形，リアクタンス，インピーダンス，位相角などの基礎事項をオシロスコープで波形観測し理解する。これに合わせて信号を発生させるファンクション・ジェネレータや、高速な現象を観測できるデジタルオシロスコープの操作方法も習得する。

1.1 日時

(A組) 2011 年 4 月 12 日，4 月 19 日 3 限～4 限

(B組) 2011 年 4 月 14 日，4 月 21 日 1 限～2 限

1.2 場所

工学部 9 号館 1F 基礎実験室（南側）

1.3 受講者

工学部 情報電気電子工学科 2 年生 164 名（A組 80 名 B組 84 名）

2 内容

2.1 指導内容

教員・技術職員・学生 TA による実験指導の内容を A,B 組全体で統一化する為、「TA 用指導マニュアル」を数年前より整備している。実験冒頭では、オシロスコープの各部分の意味と使い方をプレゼンテーションで一通り説明しながら体験させる。課題測定中は巡回して測定指導などを常時行い、所定の時間内で実験が終わるように指導する。

2.2 実験内容

CR 回路での様々な電氣的現象を、オシロスコープを用いて観測する。大きく分けて 3 つの課題がある。

- ・オシロスコープによる時間波形観測
- ・オシロスコープによるリサージュ図形観測
- ・オシロスコープ，デジタルオシロスコープによる過渡現象の観測

3 まとめ

本実験で、1 年生は初めてオシロスコープとファンクション・ジェネレータに触れる。両機器は、以後の学生実験でも繰り返し使用する為、分かりやすく明確に操作方法を教えて「使いこなせるようになる」事を目標に指導している。